

2017年6月2日

「平井レポート下書き」と教員コメント

【徳島県の課題：人口減少・過疎化・高齢化】

若者の都市部への流出による働き手の減少や少子高齢化など、地域の抱える問題は複数に亘る。その中で私が最も危惧すべきだと思う課題は、大規模小売店やレストラン・ファーストフード店の地方出店によってその地方に元々あった小売店や飲食店が経営難に陥ることだ。私が問題に着目する理由は、今年4月徳島に大規模小売店であるイオンモールがオープンしたことで、この問題がより顕著に表れるのではないかと・この問題が顕著になればなるほどその地域の特有が薄れていき、どこでも同じような光景になってしまうのではないかと思ったからだ。

どの地域にも当てはまることだが、それぞれの地域には特有の商店街がいくつか存在する。徳島でいうと駅前のポッポ街などが挙げられる。現在これらの商店街から人がいなくなりつつあり、多くの場所でシャッター通り現象がみられるようになった。実際商店街を通る人はぼちぼち見かけるが目的があり商店街を訪れている人をあまり見たことがない。商店街以外にも、元々あった八百屋や魚屋・文房具屋など活気が感じられない店を見かけることが多い。

現在徳島県では、徳島市商店街活性化事業を行っている。これは、「商店街の活性化並びに街づくりの推進を図ることを目的として、徳島市の地域商業団体が実施する事業に要する経費に対して、予算の範囲内でその費用の一部を補助する」(徳島市商店街活性化事業:徳島市公式ウェブサイト)、というものだ。この取り組みは商業団体にとって大きな支えになるのではないだろうか。補助金が出ることで今まで行えなかったことがしやすくなるであろうし、何より実施しようとする事業の大きな後押しとなるだろう。また、地域の人たち自らの手で行うことで、成功すればその経験を次に生かされるだろうし、仮に成功しなくても何がダメだったのか考え直し次に挑戦することができる。さらに、同じ目標に向かって地域の人たちが取り組むことでより強い地域のコミュニティの形成にも期待できる。この徳島市の事業の問題点を挙げるとすれば、使われる補助金は私たちが支払っている税金の一部を使用していることだ。商業団体の事業が成功すれば補助金以上の取得が期待で

きるが、もし上手くいかなければ税金を無駄に使うことになってしまう。ただでさえ少ない予算の中から補助金に使うには多少のリスクを伴うだろう。

コメント [h1]: 商店街活性化事業は過疎対策事業と性格が似ています。十分な検証が必要です。

徳島県で大きな問題とされていることに、過疎化や市町村の未発展がある。この問題の大きな原因として、「地域に魅力がない」ことが挙げられる。または、魅力があっても伝えきれていないのである。実際に、「地域ブランド調査 2016 魅力度 47 都道府県ランキング」では昨年、徳島県は 47 都道府県中 44 位であった。大学生になって県外から来た友人も増えたが、徳島のおすすめの場所やお店を聞かれると思いつかない。住んでいる自分ですら魅力をよく知らないのだから、他の都道府県の人々から見るとより魅力がないのは当然である。そこで私は、徳島県の魅力、開催されているイベント等が何故伝えきれていないのか、多くの人に知ってもらいさらに多くの人を集めるにはどうしたら良いのかを調べ考えたい。

私が考える徳島の課題は、人口減少、地方や商店街の衰退、それによる経済の衰退など数多く思い浮かぶ。その中でも町おこしなどの地域創生に注目する。創生といっても産業や経済などあらゆる場面からの方法があるのでそれらを取りあげたい。またこれを機に徳島のおかれている現状を知り、自分ができるところを見つけたい。以前に現在徳島で行われている地域活性の取り組みを調べたことがある。それはサテライトオフィスや葉っぱビジネスなどだ。今後は参考にするために他県での取り組みを調べたり、徳島の藍染を利用した地域活性方法を探りたい。

コメント [h2]: 特使アハ、もともとは原料の「藍」の産地で、藍染め（織物産地）は主ではありませんでした。

徳島の「VS 東京」を課題として取り上げる。その中の宣言として、「年を取ってもいきいきと輝ける。」があった。しかし、それが徳島で実現されているのは上勝町のいどりだけではないかということと言及する。そのために、VS 東京と高齢者メインで動いている事業について詳しく調べる。

そして、高齢者がいきいきと輝けるためにはどうすればいいかを自分なりに考える。私の意見は、地産地消型のレストランを作ることだ。地元の人たちが作った野菜で料理をつくり、レストランをコミュニティの場として活用するというものだ。全国でこのような取り組みをしている地域を見つけ、アイデアや改善点を学ぶ。

私は数年前に徳島県が発表した『vs 東京』について調べたいと考えています。『vs 東京』と発表して批判の声があがったところまで知っていますが、その後どのような取り

コメント [h3]: 飯泉知事は、「地方 vs 東京」における地方の旗手に徳島を位置づけています。地方の課題やそれに対する徳島の取組をみてはどうでしょうか。

組みがなされているかよく知らないので徳島県の活性化する方法の観点から『vs 東京』について調べレポートにまとめたいと思います。

・徳島県が抱える課題への対応

1) 起 取り上げるべき課題

徳島県が抱える特に深刻な課題を提示(調べる)

→このレポートでは、**地域活性化対策**の不十分さについて述べる。

理由:少子高齢化、過疎化などを解決するためには若者の力が必要不可欠である。
若者を徳島に残す、または呼び寄せるためには、徳島を住みやすく、活気のある街にしていかなければならないから。

2) 承 課題の説明

具体例:徳島がいかに寂れているかを、データをもとに述べる(人口、47都道府県魅力度ランキングワースト3位など)

3) 転 対応策

県や市町村がすでに行っている取り組みに言及、それらの有効性や問題点を考察(阿波藍と東京オリンピックについて(時期的に迅速な対応を求む)/VS 東京は いがなものか)
→徳島県の PR 下手

4) 結 どのように対応すべきか

具体的な解決策を提案する。(特に阿波藍)徳島県はどうなるべきか。また、地域活性化が成功すると、どのような効果があるのか。自分たちに何ができるか。(徳島県民自身が誇りを持つ!)

1)人口流出、市内以外の過疎化の進行 過疎化について 自分の本籍のあるところが島根県の山奥で過疎化が問題になっていたのもともと過疎化に興味があったため。

2)やはり大阪、兵庫とつながる鳴門市、徳島市またその周辺以外の地域では過疎が広がっている。四国の中央に近づけば近づいていくほど過疎化が進行して行っている。それに呼応して第一次産業で働く人も減って行っている。

3)例えば島根県の邑南町ではシングルマザーを支援し、呼び込もうとしている。このようにどちらかといえば社会的弱者に対し、支援して呼び込むということは地方にとっては人が増える、それに応じて交付金が増えればさらに大きな事業に取り組める。呼び込まれる側としては支援してもらえる、仕事があるなどと言った恩恵を得られる。ただし、地方にもともと住んでいた人々との確執が生まれると言った懸念がある。例えば元々住んでいた人からすれば自分たちが納めた税金が他人に対して使われてしまいあまり自分たちに返ってこないのではないかと懸念を抱いてしまうと言った可能性がある。

コメント [h4]: 地域活性化に向けて具体的な数値目標があるか、調べてみるとよいかも。

4)上記に際して地方自治体にはきちんと収支を明らかにして公表し、また地元の人々の理解が得られるように話し合いなどをきちんとし、かつ地元の人々にもきちんと還元できるような政策を練って打ち出していかなければならない。

現在、徳島県が抱える課題は少子化や高齢化、人口減少などがある。

今回、私は人口減少の課題について取り上げた。

なぜ私がこの課題を取り上げたかという点、**人口減少の問題**は非常にシビアであり大きな課題であるが、現在の徳島の人口問題について具体的な対策が講じられているとすれば、それらを把握し、自分なりの考察をする必要があると感じたからである。

現在、徳島では、2060年を展望とした「とくしま人口ビジョン」というものが提唱されている。2060年までに、60～65万人超の人を確保することを目標としている。

そして今現在、県の取り組みとして既にいくつか対策が講じられている。

県立高校 1436人を対象に行われた「徳島県に関する県内高校生アンケート調査」では、約26%が不便、地味だと回答している。そのため、県は、交流人口の増加の狙いも兼ねて、全国規模のイベントの開催を誘致したりしているが、それだけでは不十分だと考える。交流人口の増加は人口増加に必ずしも関係するとは限らない。イベントの目的を達成することが来訪者のニーズであって、イベントの開催だけでは若者の欲を満たしても人口増加に繋がらない。来訪者に対して、徳島で移住するメリットを、そのイベントと絡めて打ち出し、拡散する必要がある。

そして、高校生や大学生達の欲を満たすイベントは一過性のものに過ぎない。そして、徳島に住んでいるからこそ地域の魅力に全く気付いてない。

私は、本やネット、人づてで聞いた徳島の魅力を若者達自ら体験し感じる必要があると感じている。

私が高校生のとき、実際に地域に自ら関わりを求め、沢山の移住者やサテライトオフィス、地元の方々、子供達と交流してきた。徳島の魅力を体感することで、徳島を地味だとは思わない。そして、徳島の不便さ、特に自動車などには徳島ならではの愛着さえも感じる。

そのような機会がもっと高校生、大学生を対象に増えれば、将来的なUターン、地元就職者の増加も見込める。

二拠点居住やサテライトワークの推進による移住の一手手前の循環、徳島県内の企業のインターンシップ強化とグローバル化なども進められているが、徳島に住んでいる人たちが、実感として徳島の活性化への過程を感じていないのは問題ではないだろうか。また、目標数値として徳島県のホームページに掲げられた別項目においても達成している割合は高かった。それは、達成への基準が正しいかという点も見直さなければならないが、まずはそのようなデータをもっと提示していくべきではないだろうか。

コメント [h5]: 国立社会保障・人口問題研究所のサイトに様々な人口予測データが掲載されています。

徳島県の抱える課題とは何かと考えたときにぱっと思いついたのは人口減少、過疎化、糖尿病死亡率ワースト一位の三つのみです。徳島県民でありながら意外に徳島の現状について知らないということに気づいたのでまずは徳島の解決すべき課題について詳しく調べるところから始めたいです。興味があるかどうかという観点からだけでなく本当に社会的に問題視されているかどうかということも考えて調べた課題のなかから一つを選び、本やネットから集めたデータや周りの人の声を参考に自分なりの納得のいく解決策を見つけたいです。

今徳島が抱える地域課題は少子高齢化だと考える。それと同時に社会保障の問題もある。元気な高齢者には職を与え経済的にも自立できるように制度を整えるのはどうだろうか。徳島には「いろどり」がある。年金をもらう立場の人たちが税金を納める立場となる。そうすると経済は潤う。私は、高校時代沖縄で「ゆし豆腐」作りをした。そのとき、もう定年された方が教えてくれた。その経験も踏まえながら書く予定だ。調べなければならないこととして、徳島県以外で「お年寄りが行っているビジネス」はないのか、なければいろどりについてもっと深く調べる必要がある。どのような利点があって、今どんな問題があるのか。

・現時点での構想

徳島県が抱えている課題である、人口減少、超高齢社会、若者の徳島離れ、教育、過疎化、グローバル化への対応の遅れなどを初めに挙げ、その中でも私はグローバル化への対応の遅れについて詳しく取り上げる予定である。私はグローバルに以前から興味があり、徳島においても、また、四国においてもグローバル教育が遅れていると感じたからである。具体例として、都会では、高校生が主体となって「英語を使ったイベント」が多くてみられるが、徳島においてはとても少ないことをあげる。対応策として、学校以外にもグローバルについて、そして、英語を使って学ぶことができるようなイベントを増やす。最後にはそのことについてどのように対応すればよいかを考える。

・すでに調べたこと

徳島県が行なっているグローバル化戦略

徳島県の学校教育(英語)

グローバル、国際化という言葉についての意識の差

・調べなければならないこと

グローバル化が本当に遅れているのか

遅れていたらどうなるのか

コメント [h6]: 各地の高齢者（おもに女性）が様々な特産物販売を行っています。また、ブランド米・農産物などの取組も各地で行われています。

コメント [h7]: 徳島県でも県南地域で開催していたはず。県教育委員会のHPなどが参考になるかもしれません。

遅れていることに問題があるのか
国際化という言葉聞いてどう思うか

私は徳島県の抱える課題として、本当に移住者が増えるだけで徳島県が良くなるのかということを取り上げたい。例として IT 企業の誘致で成功した神山町を挙げる。神山町は、メディアではサテライトオフィスを誘致しそこで好きな働き方ができて夜な夜な宴会が行われると報道されているが、神山町の地元の人と移住者が関わっておらず町全体では交流できていない問題がある。これは神山町出身で一度地元を離れ、U ターンして神山町で働いている広岡 早紀子(ひろおか さきこ)さんのインタビュー記事から得た情報である。広岡さんの他に「灯台もと暮らし」というサイトから神山町に関する人のインタビュー記事が見えるのでそれを参考に情報を集め、交流できていないことがなぜ問題なのか、町でやっている取り組みなどを調べる。実際に自分が神山町に行った時に感じた違和感や、自分の活動拠点である牟岐町との比較も入れたい(必要な場合)。

私が調べたい徳島の課題は若者が徳島から出て行ってしまい、少子高齢化が進んでしまっていることだ。私が勝手に原因だと思っていることは、ショッピングセンターが少なく府子や雑貨の品ぞろえが少ないことや遊ぶ場所が少ないことだ。まとめて言うと田舎だからだ。そして、もう一つの理由は、文系の企業で大きな会社が少なく、大学も文系の学科が少ないと思う。これでは多くの学生が県外の大学に行ってしまうと思う。また、県外の大学から帰ってきてくれるにしても、魅力的な企業がたくさんないと多くの人が帰ってきてくれるというのは難しくなってしまうと思う。

これからは私が考えた仮説は正しいのかどうか、他の要因にはどのようなものがあるかについて調べていきたい。

徳島県が抱えている問題として今思いつくのは、過疎化である。神山町はサテライトオフィスで IT 関係の若者を呼び街の復興を試みているが、私はこれには致命的な欠点があると考えている。それは、子供の教育である。全国一斉テストの結果では、東京や大阪といった都市のランキングは高くない。しかし、この結果にごまかされてはいけない。都会の人口は多いし、地方に比べて遊ぶ場所も多い。繁華街の規模も違う。悪い環境にさらされる子供たくさんいる。だから、上と下の差が出るので、この結果はあてにはならない。実際、有名私立と言われる高校は地方ではなく、街に多い。一流大学の都道府県別の合格者数を見れば差は歴然である。学習塾に関しても、都会の塾は生徒がたくさんいるため、所持しているデータの数が違いすぎる。東進ハイスクールが映像授業で質の高い授業と過去問演

コメント [h8]: 地元企業の取組などを調べてみるとよいかも。徳島大学も「COC+ (プラス)」という事業を展開しています。

習の添削で頑張っているが、厳しいものがある。だから、現時点ではサテライトオフィスで活性化を試みても教育の問題を解決しないと難しいだろう。

私は高齢化について書きたいと思っている。なぜなら、高齢化や後継者不足によって農業が衰退してしまっていることに危機感を覚えているからだ。特定の地域が抱える課題への対応を考えるために、まずは何が課題となっているのかということと、その原因を調べる必要がある。原因を調べる際には、多方面から考え、できるだけ多く挙げることに気をつけたい。また、市町村が現在どんな活動をしていて、どれほどの効果がでているのか、同じ課題を抱えている地域はどんな対応をしているのかも調べる必要がある。

私は徳島の人口問題を取り上げたい。理由は大学生になってから身近でそれを感じるようになったからだ。調べていることは徳島の人口が実際に年々減少していること、それに関する諸問題を解決する策がもう講じられていることだ。調べなければならないことは、なぜ対処されているのに止まらないのかということやその対策は妥当なのかといったことだ。

私がいま徳島の課題としてあげているのは高齢者の割合の増加、若者の都会への流出、自然環境の維持、人口減少などが考えられた。しかしまだ問題になっているのに知らないことがあるのでレポートを書く上で調べていきたい。そして今回のレポートでは若者が都会に出て行ってしまうことについて考えていきたい。理由は自分も都会に行きたいと思っていた時期もあったし将来は行ってみたいなどと思っているからこそこの問題について考えていきたい。都会は人が多いし華やかに見えるので田舎である徳島から見るととても魅力的に見える。しかし田舎は田舎なりの良いところがあると思うのでその部分についても調べて考えていきたい。また、今の徳島の現状はあまり知らないのに、若者の数がどのような推移で減少しているのかや今の若者がどのような職場で働いているのかなどもしらべていきたい。

コメント [h9]: 国立社会保障・人口問題研究所や徳島県庁の統計データ課にデータがあります。

私が取り組みたいレポート課題は、平井先生の課題である。私が総合科学部に入ったのは、地域創生コースに入り、徳島県の地域発展のための研究をしたいためである。そして今回のレポートでも、地域貢献などの内容は地域発展などの内容と関連があり、興味がある内容だからこの内容の課題を選んだ。徳島県の過疎化、少子高齢化、それらによって引き起こされる公共交通機関の不便さなどの問題点を調べたため、そのことについて考察し、

解決策を提案する。調べなければならないことは、徳島の過疎化、少子高齢化などの問題に対して、政府が行っている、または行ってきた対策は何なのか、ということだ。そして問題点に対しての解決策の提案の他に、その政府の対策に対しての改善点などを検討していく。

私は徳島が抱える一番の問題は、人口減少による過疎化だと考える。特に、若者が進学や就職を機に都市部へと流れ出ていくことや出生率の低下によって若年層の人口は年々減少していっているにも関わらず、高齢者は相変わらずたくさんいるといったふうに世代別の人口にばらつきがあることが問題だと思う。そして、生産年齢人口が少ないために経済が発達せず駅前などにシャッター商店街がたくさん存在しているのが現状である。こういった現状を改善しようと徳島県は様々な対策をしていると思うので具体的にどのようなことをしているのか調べる必要がある。また、過疎化が徳島にもたらす影響には他にどのようなものがあるのかを調べていきたいと思う。

徳島県は少子化や高齢化などの問題を抱えていますが、私が提示する課題は、過疎化です。徳島県は、全国的に見ても過疎化の進行が著しく、地域の活気が失われてしまっています。このままでは徳島はもっと寂れてしまうでしょう。そこで私は、交流人口というものに目を向けてみました。

徳島の魅力をもっと高め、観光で人を県外から呼び込み、交流人口を増やすことで、徳島の活気がとりもどせるのではないかと考えました。

観光によって飲食業、宿泊業、農業など様々な分野への経済波及効果が期待できるので、産業の発展にも寄与できます。

徳島県にはすだちなどの名産品や、阿波踊りや人形浄瑠璃のような伝統文化などたくさん魅力があるにも関わらずアピールが足りないように思います。今持っている魅力を最大限に引き出すことに加え、新たな魅力を発掘し、県外へ、そして世界へ魅力を発信することが観光分野からのアプローチとして必要だと考えました。

私は、徳島県が抱えている課題の中でも、過疎化について取り上げてみようと考えている。前からこの課題に関心があったからだ。そのためにも、今の徳島県の現状を調べ、それを解消するために現在どのような取り組みが行われているのかを調べる必要がある。現段階で私が知っている取り組みの一つは、神山町のサテライトオフィスの取り組みである。これは成功例と言えそうだが、失敗例はあるのか、また、他の地域ではどのような取り組みが行われているのか詳しく調べてみようと思う。そして、これからの徳島県には何が必

要になってくるのかをしっかりと考えたい。

神山町の人口減少について

対策

- ・町おこしをしている

 KAIR(神山アーティスト・イン・レジデンス)

- ・古民家のリノベーション
- ・サテライトオフィス

調べたこと

- ・神山町の人口変動
- ・人口の自然動態と社会動態それぞれ の変動
- ・神山町の創生戦略「まちを将来世代につなぐプロジェクト」について

調べなければいけないこと

対策の具体例

徳島県での人口減少・超高齢社会について

- ・徳島県の人口推移について調べ、どのくらい人口が減少しているのかを知る。

(www.pref.tokushima.jp/docs/2015013000013/files/jinkobijon_01.pdf、

<http://www.pref.tokushima.jp/statistics/jinkou/>)

・《課題》このままでは徳島の生活水準が低下してしまうおそれがある。例えば医療機関や小売店などのサービス業の衰退や地方公共団体への税収入の現象による行政のサービス水準の低下、空き家の増加などが上げられる。地域人口を増やさなければならない。

- ・《今行政が行っている対策》について調べ、その有用性、問題点を考える。
- ・人口問題対策で行政で行うと良いこと、また、私たちでも出来ることについての考察。

私は主に徳島県の過疎地域での、病院数の減少への対応をどうすればよいかまとめていきたい。病院数の減少はどのように起きるのか、また、それによってどのような影響が出るのかを調べる。そして、何かこの問題へ対しての対応が既に市町村でなされていた場合は、それについても触れながら自分自身でさらに見解を深めていく。

既に調べたこと、知っていることを一つ述べておく。この問題が原因で、出産難民となった過疎地域の妊婦が、わざわざ時間をかけて受け入れてくれる病院まで出向くことがあることだ。

コメント [h10]: 徳島県のみならず、他の地方県でも同じような事業が展開されています。徳島県独自の人口対策などが注目されます。

私は、平井先生の課題を提出しようと考えている。

正直なことを言うと、私は最近まで地域の課題に興味がなかった。地方のことを考えるよりも、国家間の格差やそれへの支援の方に興味があった。しかし、先週の課題で地方の過疎化について興味がある人たちの意見文を読んだり、実際に徳島の地方創生を仕事にしている先輩のお話を伺ったりして、徳島だからできることを考えることへのイメージが変わった。「徳島は田舎だから」で終わるのではなく、「田舎だからこんなことができます」と言えるようになりたいと思ったし、県民全員が誇りを持ってそう言えるようになれば街に活気が戻るのではないかと。また、山口先生が授業中におっしゃっていた、都市に人口が集まった方がエネルギー効率が良いなど、都市部に人口が集中するメリットがあるということを今まで考えたことがなかったことにも気がついた。それらもしっかりと考え、それでもなお地方に人を呼ぶ意味を見出したい。

現時点ではどの分野についてまとめるかは考えられていないが、今まで18年ずっと徳島で過ごし、徳島についてたくさん学んできた。たとえば、藍染は苗を植えるところから作品づくりまで全ての工程を体験したり、ニンジンや鳴門金時は祖父母が仕事として作っているために小さい時から身近な存在だった。このような「私にとって当たり前」でも他の人から見ると珍しいものとは何か、徳島の誇れるものとは何か、今どんな支援が行われているか、などを考えるところから始めたい。

コメント [h11]: こうした視点は大事です。

私は徳島の課題の一つである「へき地医療の問題」について取り上げる。医療分野における「へき地」とは『交通条件及び自然的、経済的、社会的条件に恵まれない山間地、離島その他の地域のうち、医療の確保が困難である地域をいう。無医地区、無医地区に準じる地区、へき地診療所が開設されている地区等が含まれる。』と定義されている。そのうち無医地区とは『医療機関のない地域で、当該地域の中心的な場所を起点として概ね半径四キロメートルの区域内に人口五〇人以上(昭和四〇年以前は人口三〇〇人以上)が居住している地域であって、かつ、容易に医療機関を利用できない地区のことをいう』と定義され、平成16年で全国に約800カ所も存在する(地域医療振興協会「へき地ネット 全国のへき地医療情報ネットワーク『僻地医療とは』」, http://www.hekichi.net/index.php/hekichitowa/towa_c, 2017年6月4日アクセス)。

このような「へき地」、無医地区が徳島には多く存在する。私の祖母が住む西祖谷山村もいわゆる「限界集落」と呼ばれる過疎化が急激に進んだ場所である。へき地医療の問題点、そしてへき地に住む人々の大きな不安の一つである「救急搬送の時に到着まで時間がかかってしまう」という悩みを祖母も抱えている。祖母が暮らす地域にも医療機関は存在せず、もしもの時に救急車を呼んでも到着までに最低40分はかかってしまう。平成22年12月末現在における本県の医療施設に従事している医師数は2,223人で人口10万人あたりでは

「全国第 3 位」となっているが、全国平均を上回る医療圏は『東部 I』及び『南部 I』の 2 医療圏のみであり、その他 4 医療圏では全国平均を下回っている。一方、面積 100km² あたりの医師数は『全国第 31 位』となっており、東部 I を除くすべての医療圏で、全国平均を大きく下回り、徳島市及びその周辺エリアを除き、医師の地域偏在が顕著となっている。特に、山間へき地を多く抱える『南部 II』及び『西部 II』の圏域では医師不足が深刻な状況となっている。このように人口 1 人あたりにおける医師の数が全国トップレベルを誇る徳島県でも、全国平均を上回るのは都市部のみであり、医師数が全国トップレベルといっても、その実態は深刻である。僻地では全国平均を大きく下回り、医師の偏在が非常に顕著となっている(徳島県「徳島県へき地医療保健計画 平成 24 年 3 月」, <http://anshin.pref.tokushima.jp/med/docs/2013052800038/files/sannkoushiryou.pdf>, 2017 年 6 月 4 日アクセス)。徳島の医師数は多い、そのため充実した医療を受けることができる、そう思い込んでいた。しかし、医療機関を求めることが多い、治療をより必要としている高齢者が多く暮らす「僻地」では、医師の数が全く足りていないどころか病院も存在しないことが多いのが現状だ。

そして、医師が全く足りていない離島・僻地は都会に比べ患者数は圧倒的に少ないものの、その病気の種類に関してはほとんど都会と変わらないという特徴がある(「離島・僻地における総合診療のこころみ」, <http://www7.plala.or.jp/machikun/iryousougou.ht>, 2017 年 6 月 4 日アクセス)。

つまり住人の多様な病気に対して医師がひとりしかいない地域では、その一人の医師が内科・外科・眼科・小児科など、全ての診療に対応しなくてはならない。「へき地」ではそのような住人の健康問題を解決するために必要な総合的な能力・知識をもった医師「プライマリケア医」が必要である。それに加え、健康診断など病気の予防のための保健活動や、介護保険を中心とした福祉活動。さらに国や県・市町村の行政と連携していくこともとても大切なことだ。

へき地医療の現状、どんな問題点・課題があるのか、解決するためにはどのような取り組みが必要かなどについて、参考文献を調べるとともに、自分なりの意見を発見したい。なぜ無医地区がなくなるのかという課題について「制度的問題」、「医療現場の問題」、「地域の問題」などの観点から突き詰めた。

授業では地方の衰退、財政の悪化、文化の衰退、高齢者の健康問題、介護問題などが挙げられた。私は高齢者の介護問題ををとり上げる。

徳島県では、若者が就職や進学などのために都市部へ流出することが多い。そのように若者が都市部へ流出することで徳島県の若者は不足している。若者がいないと活気に欠けてしまう。高齢者が多数の徳島県は地域間のコミュニティが薄れている。だから高齢者が身 z から体を動かすという機会が設けられない。医師数が多い徳島県であるにも関わらず高

コメント [h12]: 問題意識はもう十分に煮詰まっていますね。医師偏在の背景には、医療制度やインターン制度そのものの問題があります。その辺りも調べるとよいでしょう。

高齢者の健康問題が出てしまうのはそのためだ。

そこでこちらから健康づくりを促すように向向って行って健康づくりのための運動などを指導していくことをする。徳島県が現在行っている健康づくりの活動を調べる必要がある。その活動に対して言及を行う。

その内容を調べて考察した後、そうすべき根拠を提示する。

私の地元は少子高齢化や過疎化が問題になっている。私はその中でも一番身近な問題の少子高齢化に伴う地域への影響について調べようと考えている。少子高齢化の影響で子供の数が減り、学校が閉校になったり、高齢者が増え、若者の一人あたりの負担が重くなったりするなどの悪い面については調べているが、授業で言っていたように反対の見方もしないといけないので、少子高齢化での良い面について今後調べなければならない。

私は、地域での少子化が深刻化していることについて取り上げる。少子化はますます解決ができる問題ではなく、はやい段階で対策を取らなければ、子どもが少なくなることが当たり前前の世の中のものになってしまう。この事を国全体で恐れ、「少子化対策をしなければ!」という政治家などが多いが、国民の声を聞かずにただただ難しい公約などを考えている。実際、子どもを持つ親が国にしてほしいことを把握しきれていない現状である。小さな子どもを持つ母親からの意見として、「教育費が高い」「安心して子どもを遊ばせることのできる場所が少ない」などがあつた。これら以外にも、家から一番近い小学校や中学校が閉鎖してしまった、塾に通わせるのが当たり前となり学業における格差が広がりつつあるなどがあつた。このようにたくさん問題点が発生したことにより、子どもを産もうと考える女性が減り、少子化が著しくなっていくのである。この少子化という問題を国任せにするのではなく、学生である私達にできることがないか考え、実現可能な提案をしたい。

徳島県にはさまざまな問題がある。地域の衰退や街の中心部であるにもかかわらず商店街に人の賑わいがなく、徳島県の地域の特有の文化である阿波踊りが他県にとられているなどである。このなかでも私が特に深刻でないと感じた課題が街の中心部であるにもかかわらず商店街に賑わいがなくシャッター街と化していることだ。これは徳島県全体の経済効果にも関わることであったと感じた。他県を見ると街の中心部は本当に多くの人で賑わっていて、さまざまなイベントも催され、経済効果が著しい。しかし徳島県は人で賑わう時期はある程度限られている。阿波踊りが開催されているお盆の期間である。この時期は本当に多くの観光客で街が賑わっている。周りの人たちはこの期間を東京の朝の通勤ラッシュのようだとさえ言っている。徳島県の街の過疎化を止めるにはやはり若者が多く集ま

コメント [h13]: 各市町村では健康教室等も開かれています。市町村の事例もいくつか参考にするとよいでしょう。

コメント [h14]: 出生率については、近年、さまざまな取組をしている福井県が上昇しています。家庭環境や就業環境、育児環境などに注目してはどうでしょうか。

るようなイベントを開催するべきだと考える。今、徳島県では「マチアソビ」や HLAB 主催の LED ライトを使ったイルミネーションのショーなどが定期的に行われている。これらの他にも毎週日曜日にボードウォークのところ徳島マルシェなども行われている。このように多くのイベントは考えてみれば行われてはいるがあまり人は集まっていないようにおもう。よってそのイベントの時だけ人が集まるようにするのではなく、そのイベントによって人が来たいと思えるきっかけとするべきではないかと考えた。

コメント [h15]: 「キャリアプラン入門」での、徳島経済研究所の田村耕一さんの話を参考にしてください。

私は徳島県、強いては私の住んでいた阿南市の地域における人口減少、過疎化を課題として取り上げる。私は高校時代に、ほかの地域における取り組みと比較しながら調査し、林業が盛んであるのに、第二次産業がないために雇用も生まれず、雇用のないために若者が住み着くことはなく、林業の効率も悪いのが現状であることは確かだ。

勿論、行政も一切の対策を講じていないわけではなく、全国各地で活動が行われている地域おこし協力隊によってイベントなどが催されている。しかし、改善されてない現状を行政側の視点から見る必要があるはずだ。何故なら、そうすることで地域問題の理解が深まり、他の地域にも応用できる方策が得られるかもしれないからだ。

1)徳島は過疎化・人口減少・県外への流出・経済力問題・健康問題などを問題として抱えている。そのなかでも私は過疎化について言及する。その理由は、過疎化は先ほど取り上げた複数の問題と繋がりがあり、過疎化を解決することでほかの多くの問題も解決することができるからだ。

2)徳島県の市町村の約半分が過疎地域に認定されている。人口は過疎地域が 2 割しか占めていない。

3)過疎化への対応として大学の建設、大企業の誘致が考えられる。また、実際に取り組んでいるものとして VS 東京やサテライトオフィスがある。

4)各年齢層ごとに徳島に残らない理由、徳島に入らない理由を調べる。ほかの都市のこういった魅力に引き寄せられるのか考える。調べた結果をもとに徳島にしかない魅力を作る。

私は徳島県の人口減少問題について調べたい。高校に在学していた時からこの問題に興味を持っているからだ。調べなければならない事は二つある。一つは現在徳島県が人口減少問題に対してどのような政策を行っているかということ。もう一つは徳島県以外の過疎地域ではどのように対策を進めているのかということ調べなければならない。それらを調べ、それが徳島県にとって有効なのか、他の対策はないかということを考えていく。

私は将来徳島県でイベントや再開発に携わりたいと考えているため、徳島県の課題について調べる機会が今まで何度かあった。しかし、空き家問題は自分の夢には関係ないと思っており、調べたことがなかったため、今回、徳島県の空き家問題について取り上げたいと思う。

調べていることは、徳島県の空き家率が高いこと、空き家数を把握できていない市町村があること、空き家の解体費用に市町村が補助金を出していること、市町村で空き家を活用するための講習が開かれていること、空き家バンクの存在、である。

調べなければならないことは、**空き家の解体・活利用の具体的な例**、対応策の取り組み結果、である。

それらを調べた上で、空き家問題にどのような対応をするべきかを検討することが必要である。

徳島県が抱えている課題として、少子高齢化や過疎化、そして地域産業の衰退などが挙げられるが、その中でも特に過疎地域の自立について取り上げたい。なぜ過疎地域の自立について取り上げるかというと、地方を活性化させるためにはまず過疎地域が自立できるような環境を作ることが必要だからである。過疎地域を自立させるために、地域によってどのような問題点があるのかを知る必要がある。徳島県のホームページでは東部圏域・南部圏域・西部圏域というふうに3つの地域に分けて課題が提起されていた。また、人口の変化のグラフやこれまでの過疎対策の成果と課題についての記述もあった。東部では集落機能の維持や交通手段の確保の対応、南部では交通インフラ整備の遅れや第一次産業の低迷、南海トラフ巨大地震の津波対策などの対応、そして西部では東部と同じ課題を抱えていることを取り上げて行きたいと考えている。

これから、徳島県が抱えている課題が今回は3つしかあげられなかったのもその他の課題を調べたり、過去の課題への取り組みとそれをどのように生かして今の取り組みを行っているのかを調べたりしなければならない。

私は平井先生の課題を選ぶ。私は取り組みたいレポート課題は「徳島県の人口減少の問題」である。

調べなければならないことは徳島県の人口の状況や人口減少の影響である。人口減少の問題を解決するために人口減少の原因が分からなければならない。原因がわかったら、対策を考える。徳島県に対して有効な対策をしらべるために、人口増加するため行われたとくしまマルシェや徳島LEDアートフェスティバルのような対策の優れている点や欠点を調

コメント [h16]: 広島県の尾道市でも先進的な取組がなされています。

べなければならない。それに、人が住みたい地域の特徴を調べて、徳島県と比べた後で、徳島県の優れている点と欠点を分析することも大事である。

「人口が減少すればガソリンやガスや灯油など燃料使用量が減って、環境を守れる」ということに対して反論の調べることも必要である。

徳島の地域問題の人口減少、過疎化についてまとめる。図書館で本や統計データを参考にし、データを参考にしながら対策や原因について考察する。まだ詳しい構想は決めていない。2017 現在徳島の人口は 75 万人である。いじめや自殺率が低い。

徳島に愛着を持つ割合が高い。

課題(調べたこと)

- ・少子化の現状

将来人口の見通しでは 2040 年には 60 万人をきると言われている。また、老年人口が総人口の 40%になると予測される。合計特殊出生率の低下がみられる。

- ・人口流出

高校卒業、大学進学の際に県外への転出している。

これらのことから起こると推測されること

- ・現役世代への負担増加
- ・経済力などの低下
- ・伝統文化などの消失

原因

- ・未婚、晩婚の進行
- ・晩産化
- ・結婚に対する意識の変化
- ・子育てを取り巻く環境の変化
- ・労働形態の変化

これから調べること

- ・今行われている対策
- ・その対策のメリット、デメリット
- ・それ以外にやるべきこと、やってほしいこと

徳島市がかかえている課題について、人口問題を取り上げます。徳島市の人口は平成 10 年ごろを境に徐々に減少しています。人口が減少すると、今あるサービスが維持できなく

なったり、高齢化社会で生産年齢人口が減少し労働力の確保が困難になったり、徳島市が抱えている借金の一人あたりの返済額が上昇したりと、デメリットがたくさんあります。徳島市では、「まち・ひと・しごと創生法」が平成 26 年 11 月に施行され、「まち・ひと・しごと創成総合戦略」と題して将来の人口ビジョンを設け、創業のサポートや子育ての経済的援助、定住に向けての魅力発信など様々な活動を行っています。これから調べることは、地元の若者の県外流出をどう抑えるか、です。

私の住んでいる美馬市における課題は、

「人口減少」「若者の流出」「雇用の低下」「高齢化の進行」などがある。私はその中でも、美馬市が重点的に対策を取ろうとしている「若者の流出」について取り上げる。

美馬市が取ろうとしている対策は「人口を増やそう」ではなく「人口が減るのを食い止めよう」という消極的な動きである(『美馬市人口の分析と将来展望に向けての課題 美馬市版「人口ビジョン」「総合戦略」の実現に向けて』,平成 27 年(2014 年)7 月,企画総務部 企画課 政 策 課 ,<http://www.city.mima.lg.jp/gyousei/shiseizenpan/sousei-p/sousei2-p/files/jbunseki-kadai.pdf>,2017 年 6 月 3 日閲覧)。また、山間部での人口減少が著しいとあるが、それは単純に利便性に欠けることが原因だ。

そうであれば、山間部での利便性を向上させること、または平地に移ってでも美馬市で暮らしたいと思える政策を取ることが有効でないだろうか。

ここから、交通の観点から美馬市における利便性の向上を図る対応策を考察していく予定。それに伴って調べなければならないことは以下 3 点だ。

- 1)買い出しに赴けない人を中心に物資を移動販売するサービスとして注目を集めている「とくし丸」の販売実績や主な活動場所など、貢献度を裏付けるもの。
- 2)美馬市を走っているバス(駅から町村の区間を往復するものや、利用者があらかじめ希望した場所へ送迎するという対応が可能なものなどを確認している)の利用状況や認知度。
- 3)美馬市内にあるスーパーマーケットやコンビニ、ホームセンター、服屋の分布(衣食住を揃える主な場所として想定)

私は地元の第一次産業労働者の高齢化と若者の減少について取り上げたいと思う。私がこのことについて取り上げる理由として、以前ボランティアで農家さんのお手伝いをした際、60 代以上の方が多く、反対に 20、30 代の方がごくわずかの人数しかいなかった。その影響で第一次産業の後退が深刻化していくのではないかと考えたからである。

今後は全国の第一次産業の人口や労働者の年齢層などを調べ、各地域で若者の減少を防ぐために行なっている対策などを、調べていきたい。

【課題】板野町に定住してもらうためには

【理由】現在板野町では、町内の保育料を無料にするなど、移住者を増やすための政策を行っている。そのおかげか去年度は数年ぶりに板野町の人口は増加した。しかし、増加したことに安堵している間はない。子供が中高進学するときや結婚するときに町内から出ていく人も居り、定住している人は多いとは言えないからだ。そのために板野町に定住してもらうために何をすればいいか考えようと思う。

【調べなければならないこと】

- ・過去 10 年間の板野町の人口減増
- ・過去 10 年間の板野町の人口増加対策
- ・過去 10 年間の板野町の人口定住対策
- ・他県で成功している人口定住のための政策

私は、自分の生まれた那賀町についてレポートに決めた。

那賀町が抱える課題は少子高齢化、人工減少(若者の)、農業仕事の減少、単身世帯の増加、森林面積の増加、森林労働者減少(若者)があげられる。そのなかで 2 つに注目していく。

まずは、単身世帯の増加についてである。若い人が都会に移りお年寄りが残されて一人で生活しているのが増えているからだ。そのため、一人での生活が寂しかったりしている家庭が多い。

2 つ目は、少子高齢化である。子供が少なくなっていることで学力面がわからず他と比べると低下してしまったりする。また、子供がいないことで次の世代が増えてこない。そのことでお年寄りばかり増えて町に活気がなくなってしまう。

私は今回のレポートにおいて徳島県の人口流出問題について書こうと考えている。この課題を選んだのは、近年徳島県で若者の都市部への流出が多くなっていることを知り、自分の周りでも大学進学などの理由で県外へ出て行く子供が多いたのでとても興味深く思えたからである。徳島県では、この問題において、東京への一極化を防ぐために、挙県一致で『課題解決先進県』の叡智を結集し、県民の皆が将来にむけて、夢や希望をもてる徳島を創生しようとする試みをおこなっている。その政策には、どのようなものがあるのかをこれから調べていくつもりだ。自分の考察としては、若者へ徳島の良いところを伝え将来徳島で働くという人を増やしていくべきだと考える。

コメント [h17]: 中山間地域では買い物や医療サービスなどが問題になっています。行政側の対応なども調べるとよいでしょう。

1)徳島県の地域発展

少子高齢化にともない人口が減っている徳島。若者が県外に出ていき徳島がますます衰退していく今日このごろ。徳島に住んでいる私達には無視出来ない状況を打開すべく、徳島の町おこしを考えていきたい。

2)課題説明

徳島の人気として阿波踊りや藍染がある。阿波踊りはイベントのため人気が一過性である。藍染は徳島の昔から続く文化だが、海外にも広めたい。徳島の知名度を上げるべく、新たなイベントや、海外にもっと徳島の魅力を知ってもらうようアプローチの方法を考える。

3)対応策

とくしまマルシェでは徳島の特産を知れて、海外からの観光客も見受けられた。しかし、規模があまり大きくなかったのもう少し賑わいが欲しい。

マチアソビでは県外からも来るのでマチアソビ関係以外にも色々なお店を出して徳島のことを知れる機会を増やす。

4)どのように対応するべきか

徳島の魅力は多く、様々なイベントにも取り組んでいる。しかし、あまり規模の大きなものには無い。理由としては徳島にはあまりお金が無いことである。解決するためには徳島が今、力を入れている「ふるさと納税制度」にも関わっていく必要が

コメント [h18]: イベント開催には様々な補助金を使用されることが多いです。その投資効率を検証することも考えられます。

今回私は平井先生のレポート課題を選択する。なぜなら、私の地元は大分でも田舎であり地区の半数以上が高齢者となってしまう、母校である小学校も全校生徒が自分が通っていた時と比べ50人以上も減少してしまった。また、高校もあったのだが、生徒数の減少に伴い私が小学校の際に廃校となってしまった。さらに私の地元は港町であり漁業で有名な地域であった。それが、高齢化に伴い漁業者の高齢化が進み、後継者不足などの問題も上がっている。さらに祭りなどの地域行事も以前自分たちが小中学生の時の山車を引く距離も年々短くなり今では山車をやめるか否かという話になっている。やはり過疎・少子高齢化は地域の文化や伝統をも蝕んでしまう。それを打開する手立てとして同じ大分県内にある宇佐市の移住制度を取り上げ自分の地域に生かすため、私は過疎及び少子高齢化についてをテーマにしようと決めた。

まず過疎と少子高齢化をテーマに選んだのだが、私はこれを少子高齢型過疎化と定義したうえで論を展開したいと考えている。まず少子高齢化と過疎化は別の問題ではないであろう。田舎の地域にとっては高齢化が一つの要因となって少子化が進むというのは間違っていない。しかし、高齢化ばかりが原因ではない。そもそも私たちの地域もそうであるが若い世代の家族の数が少ない。これは高齢化からというだけでなく、高校に進学などを理由に交通の便などを考慮し引っ越してしまうからだ。テーマ決定の理由の際に行ったこ

とだが、私の地元の高校もそうだが地方の高校というのはやはり店員割れが起きてしまう。結局は市の中心部の学校に人気が出るため廃校になる学校が多いのだ。廃校になってしまえばもちろん移動費などが出てしまうためこの際だから引っ越そうということで若い世代の家族は出て行ってしまう。つまり地域の少子化というのは高齢化と過疎化の二つの大きな要因の元起こっているのだ。だからこそ少子高齢化と過疎化を同じくくりで解決しなくてはいけないということだ。そのために必要なデータとして、大分県が出している過疎地域のデータと県内の少子高齢化状況のデータを比較し、類似点を洗い出し、数値上からも定義したように少子高齢化と過疎化の関係性を出すところから始める。

続いて定義した少子高齢化型過疎化についての解決策の一つとして挙げる同じ県内の宇佐市が行っている移住制度について調べる。現在宇佐市では市が他県からの移住を支援したり、空き家バンクといってどの地区に空き家があるかを教えてくれるシステムなどがある。そして宇佐市は住みたい田舎ランキング一位にも輝いている(いなか暮らしの本、宝島社、2014年第二回住みたい田舎ランキングより)。そういった制度を私たちの地元やほかの地区にも適用すれば、多少なりとも少子高齢型過疎化の対策にもなるはずだ。しかし、いい面だけ書いても具体的ではない。そのためにも、一位になることができるにはどれほどのお金を使い、どのような制度を作り整備することでようやく人気が出る可能性のある制度となるのかという具体的な内容も調べる必要がある。そのためのデータとして宇佐市が移住制度にかけている金額などのデータを得る必要がある。そしてどういったシステムなのかのデータも必要だ。

これらのデータをもとにして必要な金額面などの具体性を示しそれでも地域の少子高齢型過疎化に効果的であるのかを述べていく。

私は、私の地元が抱える課題への対応について考える。私の地元は過疎化により人口が減少し続けている。平成20年以降は毎年3000~4000人、時にはそれ以上の規模で人口が減少している。特に若者の流出が著しいため、商店街はシャッター通りになり、中心街ですらあまり人が歩いていないなど街の活気がなくなりつつある。交通の便もあまり良くない。県内を走る汽車、電車、バスの本数がとても少ない。東京や関西圏から離れているため、都会へ行くにはお金と時間がかかってしまう。新幹線も通っていない。また県内に有名観光地が少なく、県外の人からの認知度も低い。私は交通や観光、雇用など様々な問題が関係して、その結果過疎化が進んでいるのではないかと考える。

これらの課題をより深く知り対策を考えるために、まず地元のホームページや人口の推移のデータなどを調べる。それらにかかわる本や県知事が県の行政について書いた本を読み、ほかに課題はないか、課題解決のために実際にどのような取り組みがなされているのかななどを調べる。

私は、地域の過疎化を取り上げる。特に、若者が都会へ流入し、地方に高齢者が残るとい問題について考えていく。私は今まで都会に住んでいたが、今、その場所を離れてみて、都会と地方の違いを知ることが多くなった。人口の違いはもちろん、交通や建物、企業などの面で、都会のほうが充実しており、過疎化が進むことが納得できる部分がある。今まで住んでいた都会と、今住んでいる地方の違いを知ること、地方をもう少し活性化する方法はないのかということを考えるようになった。これが、地域の過疎化を取り上げる理由である。

対策案としては、若者を地方にとどめるために、新しい私立の大学を建設したり、新しい働き場を作ったりすることが挙げられる。また、そのような大学や会社で、その地方出身の人が有利になるようなサービスを考える必要がある。都会に住む人々をわざわざ呼び込むのではなく、まずは、地方にいる人々をとどめておく対策を考えていかねばならない。

これから調べておくこととしては、大学や会社を新しく地方に建てた前例があるのかどうかということだ。もし、前例があり、その取り組みが成功しているならば、徳島でも同じ取り組みを行えばよいし、前例がないのならば、費用や土地などを考えていく必要がある。そして、前例がない場合、この取り組みを行うことは、ニュースなどでも取り上げられるだろうし、徳島のいい宣伝にもなるだろう。

さらに、交通面の改善点についても調べなければならない。徳島は、自動車やバスが交通機関としてある。しかし、本数が少ない。もっと便利に移動することができるように、本数を増やすことや、電車や新幹線の開通を検討するのがよい。電車ならば、他県との交通が便利になり、新幹線ならば、都会まで短時間で行くことができる。

このように、様々な面から過疎化の改善点を調べることを通じて、地域の課題に目を向けていきたい。

徳島県が抱えている問題

- ・若者の減少(過疎化)
- ・交通の不便さ
- ・働く場所の少なさ

徳島の過疎化を中心に、若者の現状を調べていきます。なぜなら、都市にでていく若者が増えているからです。なぜ徳島に残らずに、都市にでていくのか、原因を知りたいからです。

徳島県民の就職先などを例にして、調査していきます。

徳島県は、徳島の企業で働く人のための奨学金などの取り組みが行われています。大きなデパートを作ることで、働く場所を増やそうとしています。

徳島県で若者が働く場所がないのが、大きな問題になっています。そのため、働く場所

コメント [h19]: 雇用面からすれば望まれる施策ですが、都会と同じものを作っても、それでは都会の人間が地方に来るか、というのは別問題です。他の方策を考える手もあります。

を増やしていくのは、正しい選択です。働きに行くための交通が次の問題になってきます。JRしか列車がない徳島県の不便さを改善していくべきです。

【徳島県の課題：糖尿病】

私が調べたいのは「なぜ徳島県の糖尿病死亡率が全国で最も高く、どうしたら改善できるのか」というものだ。これを調べたい理由は、徳島に来てから糖尿病の死亡率がとても高いということをあらゆるところで耳にしたり、「環境とバイオテクノロジー」という授業で脂質について学んだ時にも糖尿病死亡率について取り上げられたりして、原因が気になったのとどうしたら改善できるのか自分なりに考えてみたいと思ったからだ。

レポートの構想としては、まず死亡率が過去何年でどのくらいなのか、何人当たり何人死亡しているのかを調べ、次に一般的に糖尿病になる原因を調べて、徳島県民性とどのように合致しているのかを調べる。最後にすでに行われている改善策を調べた上で、その改善策の問題点を考え、自分が考える改善策を述べる。

現時点で分かったことは、人口 10 万人に対する糖尿病による死亡率が 17.6 人と、全国平均の 11.0 人を大きく上回り、6 年連続で全国ワースト 1 位だったこと。そして、平成 5 年から 25 年までの 20 年間でワースト 1 位でなかったのは 2007 年の一度だけであり、ベスト一位の神奈川県は人口 10 万人に対して 7.1 人と、徳島県の半分以下であることだ。ただ、「健康とくしま県民会議」を設立して運動不足の解消や野菜の摂取の呼びかけを続けてきたおかげか、平成 26 年は全国ワースト 7 位、平成 27 年は全国ワースト 5 位、平成 28 年は全国ワースト 8 位となり、ワースト 1 位を脱却しており、ほんの少しずつでも改善されてきていることもわかる。

これから調べなければならないこと、考えなければならないことは、糖尿病の原因と県民性との比較、すでに行われている改善策をもう何個かとそれらの問題点・改善点、自分の考える改善策である。

私が取り組みたいレポート課題は、徳島県が糖尿病死亡率が全国でワースト 1 位であることについてだ。この問題の原因を調べるところから問題点、対応するための手段などをまとめていきたい。すでに調べたことは、糖尿病は偏った食生活や運動不足などによっておこる生活習慣病の 1 つであることだ。これからは現在徳島県が行っている取り組みや、糖尿病予備軍とはどのようなものなのか、また 1 人でできる糖尿病の予防策などを調べていきたい。

私は徳島出身であるため徳島のことに興味がある。そこで私は徳島県の最重要課題の一つである糖尿病死亡率が高水準であることを取り上げたい。徳島県は過去 15 年のうち 13 年が糖尿病死亡率全国ワースト 1 位である。原因として考えられることは、食べ物の味が濃いことや、車の保有率が高く 1 日当たりの歩数の平均が全国平均より約 1000 歩少ないことなどがあげられる。県としては、「健康徳島 21」というスローガンのもと 20 年かけて糖尿病死亡率を減らし、健康寿命を上げることを目標に取り組みが行われている。また、糖尿病患者を増やさないように県の小学校で万歩計の配布を行い、子供のころから歩くことを意識させるなど対策が行われている。今後はこの取り組みがどのような成果を上げているのか様々な面から数値化したものを調べていかなければならない。また、課題も見つかるはずであるので、解決策を考えていかなければならない。

徳島県の抱えている問題→過疎化、雇用問題、医療問題等があげられる。今回は医療問題の中でも糖尿病について対策などを挙げていきたい

なぜか→徳島が平成 5 年から平成 18 年、平成 20 年から平成 25 年まで「糖尿病死亡率」全国ワースト 1 位であった。(http://www.pref.tokushima.jp/docs/2008111700039/ 徳島県 徳島県の糖尿病の現状と対策)私も親族に糖尿病患者がおり決して他人事とは言えない。糖尿病の対策として、予防、進行を遅らせるにはどうすればいいのかを挙げていく。

1. 徳島県の名産品であるスタヂで進行を遅らせていく

(http://medical-today.seesaa.net/article/23017565.html 医療・医学ニュース、スタヂの搾りかすに血糖値抑制効果)

2. 隣県愛媛の名産品、温州ミカンで予防する

(http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/fruit/062031.html 農研機構、ウンシュウミカンに多く含まれるβ(ベータ)-クリプトキサンチンの血中濃度が高い人では 2 型糖尿病や非アルコール性肝機能異常症等の生活習慣病になりにくいことが明らかに-浜松市(三ヶ日町)における 10 年間の追跡調査から-)

温州ミカンに多く含まれる「β-クリプトキサンチン」をみかんを食べることで糖尿病の発症率は食べない人と比べると 57 パーセントも低下する。すでに糖尿病に発症している人も本来捨てられるスタヂの搾りかすを有効活用することによって糖尿病の進行を遅らせることができる。

しかし「β-クリプトキサンチン」をとるためだけに毎日ミカン 3~4 個食べ続けるというのなかなか難しいしスタヂの搾りかすをそのまま摂取するというのも難しい話である。徳島県が抱える課題である糖尿病死亡率をさらに下げするために徳島県がスタヂの搾りかすを使った糖尿病の進行抑制に効果のある加工食品や、「β-クリプトキサンチン」を効率よく取れるようなものを作っていくべきだ。

私が考える徳島の抱える問題点の一つは、健康問題である。まず、その徳島の健康問題の象徴ともいえる糖尿病の患者率 1 位という点を軸に考える。なぜ一位なのかその理由、そしてその理由に基づく現在の対処措置について調べ、対処措置にも関わらず、なぜ徳島県は、健康問題を抱え続けるのか批判的な自分の考えを示し、その考えを踏まえてこれからのような健康問題に対する対処が必要か考えて書く。

徳島県が抱える問題として、糖尿病について書こうと思っている。構想は、糖尿病についての説明をして、今現在県が取り組んでいる事を書き、自分なりの対策、その対策によってもたらされる恩恵を書いてまとめにしようと思う。今現在調べたことは、徳島県は糖尿病の患者が全国 1 位であり、その原因は車の多用による運動不足だということである。調べなければならないことは、県の取り組み、今後の患者の数の見積もり、少しでも和らげるための解決策である。

私は、徳島県が抱える課題への対応として、徳島県は糖尿病死亡率が全国ワースト 1 位ということで、徳島県の健康課題を取り上げる。徳島県は、交通整備が行われていないことより車社会であるため、運動不足であるといわれている。現状を把握した上で、地域の改善に向けた取り組みや、健康数値が高い他県の取り組みについて調べる。

私は、徳島県の健康問題について考えたい。徳島県が糖尿病死亡率において、全国ワースト 1 位だと聞いたときは衝撃を受けた。しかし、今では、とても良くなったわけではないが、ワースト 1 位から抜け出せている。だから、もう 2 度とワースト 1 位には返り咲いてほしくない。そして、欲を言えば、もっと良いランキングに入ってほしい。だから、その対策を考えるため、この課題を選んだ。

糖尿病を改善するため、運動を促したり、糖分の少ない商品を開発したりなどもうすでに多くの対策が為されている。例えば、調味料や添加物などを一切使っていないというキクイモの商品開発についてのニュースを見たことがある。キクイモには、イヌリンが含まれており、糖尿病に良い影響を及ぼすのだ。このような商品を他にも発案するべきだと思った。私は、徳島の特産物である、すだちを使った商品を発案すればよいと考える。すだちには、豊富なビタミンやカルシウム、糖質を分解してエネルギーに変えるクエン酸が多く含まれており、果皮まで薬味として使うことができる。だから、糖分を摂りすぎる問題に十分対応できる。そして、疲労回復にもつながる。

コメント [h20]: 糖尿病をあげる人が多いですが、徳島県民の健康状況は全国的にみてどうなのでしょう？健康医療費に多額の経費を費やしているのでしょうか？

このような商品を開発することで、地元の人に愛される商品となり、その上、多くの人に徳島県をPRできる商品となり、地域活性にもつながると考える。

レポートを完成させるときには、もう少し違う徳島県の問題についてももっと詳しく調べてみたい。

【徳島県の課題：その他】

私が取り組みたいレポート課題は、平井先生の「徳島県など、特定の地域が抱える課題への対応」についてである。現時点では、徳島県が抱えている人口減少・過疎化や地域経済の衰退などの課題について提示し、その中で地域の財政難の課題をレポートとして取り上げるつもりである。なぜその課題を取り上げるのかというと、私が徳島大学で推薦入試を受けるときにこの地域の抱える課題について調べた。そのときは私の住む町の市町村合併のことだが、そのことだけでも多くの地方の抱える問題を知った。だからこの機会にもっと深く、そして徳島県という広い地域を視野に入れて考察していきたい。例えば、小松島市では2009年に財政再建団体に陥る危機にあった。なぜなら、実質公債比率が阿南市や徳島市と比べて2倍以上の割合があるからだ。以前小松島に住む友達が「人口が多いにもかかわらず公共施設や働く場所が少ない」と言っていた。このため人口が増えていかず、公債費が多くなり市役所の耐震ができず防災の整備が遅れている。確実に起こる南海地震に対して耐震できていないのは良くないだろう。徳島県では他に鳴門市が整備不十分である。牟岐町や日和佐町では海に近く、津波の警戒があることから整備に力を入れているが、県北となるとつい後回しになるところがある。そのためには、財政を各市町村で行う部分と県全体で行う部分をもう一度見直してみてもどうだろうか。実際に徳島県ではしっかり南海地震に対しての経費は出している。しかし、十分でないのが市役所を見れば分かるのだ。それならば、お金の使い道に優先順位をつけるべきである。また、小松島市自身もそこに住む人を増やすための対策をしないといけない。なぜなら、このためには財政が上の徳島や阿南に近いという立地条件の不利な点をその場所だけのものを見つけてリカバーしないといけないからだ。そうしなければ、将来破綻する恐れがある。また、地方の経済について良い面は消費者庁が徳島県に移転することが決定したことだ。これは、東京一極集中是正に対して行われた事業で消費者庁と徳島県が協力して消費者施策の分析や研究を行うものだ。徳島県の通信環境は西日本一と言われるくらいいいもので神山町にサテライトオフィスが作られ近年注目されている。この移転は地方創生を目指す上でチャンスであり、そこに住む人たちの温かみを来た人が感じる中で地方の良さをアピールできるのである。

私は、平井先生の社会連携・地域貢献レポートに取り組みたい。現在の徳島県が抱える課題は、地方の過疎化や伝統産業の後継者不足、農業や漁業の衰退、障害者支援に関するものなど多岐にわたる。その中でも私に関心を寄せているものは障害者支援に関する課題である。現在徳島県は「障害のある人もない人も暮らしやすい徳島づくり条例」というものを施行している。そして障害者支援に関してより多くの人から関心を得ることができるような取り組みを行い、支援の輪を広げようとしている。以上のような徳島での障害者支援について考えたいと思うため、レポートを書くにあたり他県との比較を行う。そして徳島での障害者支援の現状をしっかりと把握した上で県の取り組みについて考えたい。また実際に行われている支援について詳しく調べ、より充実した支援を行うために必要な設備や知識は何であるのかを考える。

私は平井先生の課題を選ぼうと思っている。理由としては、単純にほかの課題と比べて関心があること、そして、私は将来、徳島で地方公務員として働きたいと考えており、その時に徳島のために尽力したいので、どうすれば徳島の抱える課題を解決できるのかについて調べることができる良い機会でもあるからである。加えていえば、私は上勝町の葉っぱビジネスについて少し興味を持っていたのだが、今、そのビジネスが抱える問題について今回の講義で平井先生がおっしゃるまでは知らずにいた。そのせいもあってか、余計に葉っぱビジネスのような地域活性化につながるものの難しさや落とし穴についても知りたいからだ。

現時点で私は平井先生のレポート課題を選択しようと考えている。なぜなら、4つの内で一番平井先生のレポート課題に関心があるからだ。私は、生まれ育った地元徳島県について調べようと考えている。そのため、このレポート課題を行うにあたって、まずは徳島県と徳島県外の現状を比較し考察していきたい。例えば雇用の面で徳島県は同じ四国にある香川県よりも雇う人数が比較的少ないなどである。まだ調べた内容は多くはないが、これから信用出来る情報を元に調べていきたい。

コメント [h21]: 産業構造に違いがあるのかもしれない。

～レポートの下書き～

1 1 徳島県が抱えている課題をいくつか提示(説明も少し交えつつ)

- ・人口減少(2010年:78万5千人→2040年:57万1千人)
- ・空き家問題(2013年:16.6%←全国4位の高さ)

2 レポートで取り上げる課題を示す

コメント [h22]: データを取り上げる場合には、出典も明記しておいてください。

- ・南海トラフ巨大地震

3 なぜ取り上げるのか理由を述べる

・他の問題と違い、予期せず突然発生し、莫大な数の死者が発生するため早急な対策が必要であるから

・テレビの映像を通してではあるが、東日本大震災の被災の状況を知り、自然災害を相手には、相当に入念な対策が必要であると感じるから

・自分が住んでいる地域も津波の浸水域に含まれると知り、南海トラフ巨大地震がより身近なものと感じるから

2.1 具体例をあげながら詳しく説明

- ・地震発生確率:30年以内に70%程度

・予想死者数3万1300人(揺れ:3900人、急傾斜地:30人、津波:2万6900人、火災:470人)

- ・避難者:36万2600人←県人口の46%

- ・徳島県沿岸部における最高津波水位20.9m

3.1 徳島県の取り組み

- ・南海トラフ巨大地震に備える「全国初」の条例

徳島県南海トラフ巨大地震等に係る震災に強い社会づくり条例

→自助・共助・公助を基本に関係者が連携して震災対策を推進

7割2割1割

- ・国土強靱化地域計画

→いかなる大規模自然災害が発生しても、機能不全に陥らず、いつまでも元気であり続ける「強靱な地域」を作り上げるための計画

→(1)ハードとソフト対策を適切に組み合わせる

(2)自助・共助・公助を適切に組み合わせる

(3)国、地方公共団体、住民、民間企業等の総力を挙げる

2 住民の意識について

南海トラフ巨大地震への関心→関心がある:95.8%

地震防災訓練への参加→全く参加していない:52.3%

専門家による耐震診断→受けたことない:85.4%

家具の固定→50.0%

→意識出来てはいるが、行動に移せていない

→近隣住民同士の繋がりが希薄であることの表れ

4.1 今後の対応

阪神淡路大震災では救助された人約3万5千人のうち消防・警察・自衛隊といった公的機関によって救助されたのは約8千人(約22.9%)、近隣住民によって救助されたのは約2万7千人(約77.1%)

- 自助・共助が非常に重要
- 防波堤の整備などのハード面での対策のほかに、平常時からの住民同士の繋がりづくりにも対応すべき
- 県・自治体が防災訓練だけでなく、スポーツ大会など住民参加型のイベントをもっと開催し、その際に携帯電話やテレビといった大多数の人々が利用する媒体を通じて周知すればより多くの人が参加できる
- 住民同士の繋がり強化へ

1) 少子高齢化、南海トラフ、人口減少、観光者数が少ない、宿泊者数が少ない、空き家問題

取り上げる課題は南海トラフについて

理由は何年か後に来ると言われているから。阪神淡路大震災や東日本、熊本地震などのような被害を出さないようにしたいから。

2) 生活物資の不足、エネルギー不足、帰宅困難者や孤立集落の発生、甚大な人的被害、建物被害などが起こることが予測されている。平成 25 年に公表されたものでは、徳島県全体で震度 6 弱以上が予測され、徳島市にも 4~5 メートルの浸水深が予測されている。

3) 対策は建物の耐震化、海岸堤防、ハザードマップ等の整備と認知

有効性は建物の耐震化によって地震に強くなる。海岸堤防を設置することにより津波の被害を抑える。ハザードマップを把握することでその場所の被害予想を知ることができる。

問題点はすべての共通点にお金と時間がかかることが挙げられる。またハザードマップを個人だけで理解しようとすれば限界がある。

4) 対応策はハザードマップを認知させるために学校の授業時間を使って実際に地域を回ったりする。

調べないといけないこと

全体的に具体例をかく

解決するための根拠集め

私は地域の課題について、特に教育について考えたい。なぜなら、私は将来教育関係の仕事につきたいと考えており、また地域活性をしていくうえで教育は欠かせないからだ。私の地域では子供の数が減り、二年後には私の通っていた幼稚園が廃園することになった。また、小学校と中学校も合併する話がでている。そこで問題となるのは、校舎の場所、遠い場所からの通学手段、年齢の違った生徒を同じ教室で教える際の方法などといったものである。また、今の状況が続いていると合併したところで子供がいなくなる可能性があるということだ。

コメント [h23]: 徳島県や各市町村もハザードマップを公表していますが、その地図の記載内容にはかなり違いがあります。

そこで私が調べるべきことは次の通りである。一つ目に、今自分の地域が行っている教育支援活動。二つ目に、少数人数で授業をしている学校、また成功例など。三つ目は、これから出産・子育てしていく家庭を呼び込む方法、成功例である。

これらのことを調べて、自分なりの解決策をいくつか提案したい。

取り上げるべき課題

徳島における特産品や伝統文化における外部への発信不足

徳島は、多くの特産品、伝統文化や行事ごとを設けているにもかかわらず、その魅力が県外になかなか伝わっていない。

課題の説明

たとえば、徳島には阿波踊りという素晴らしい伝統行事がある。このことについては県外でも多くの人々が知っているはずである。それはやはり、アニメと阿波踊りをコラボさせるというような政策が成されているからというもの、大きな要因の一つである。

しかし、そのほかにも徳島には「藍」といわれる伝統工芸品であったり、世界三大土柱の一つである「阿波の土柱」、さらには日本三希橋の「祖谷のかずら橋」など、魅力的な自然を生きたものが多く存在する。にも関わらず、これらが広く日本全国に知れ渡っているかということそうではない。

対応策

徳島では、徳島の藍を広めようとしている人々の中で、「寄り藍」と呼ばれる組織の運営や、「MADE IN TOKUSHIMA SHOP」というオンラインショップなどの政策が行われている。そういった活動は非常に貴重なものだと思うので、CMで流したり、オリンピックの際のエンブレムに使用されている藍をテレビで大々的に報道すべきである。

どのように対応するべきか

テレビでの宣伝、ラジオでの宣伝、広告での宣伝など多くの宣伝方法は存在しますが、やはり一番決定的なのは「経験者の声」である。前例があつて、その評判の良さから興味を持つ人は多くいる。よって、実際に自らがその場に赴いたり、体験したりすることによって、それを生の声で外部に伝えるのが最も効果的である。"

コメント [h24]: SNS から「徳島の評判」？に関するデータを拾うこともできます。

1)高齢化や過疎化などの問題が目立つが、徳島の観光産業について取り上げる。取り上げる理由は、他県民に徳島県の魅力が伝わっていない現状があるからだ。

2)私の地元の兵庫では、徳島の観光といえば、阿波踊りと鳴門の渦潮に集中している。徳島県にはもちろん他にもまだまだ魅力があるが、知られていないのが現実である。

3)大型商業施設やテーマパークを作る

・メリット 1日に何万人もの観光客が訪れる、徳島を訪れたついでに県内を観光してく

コメント [h25]: イオンモールなどを調べてみてもよいかもしれませんね。

れる

- ・デメリット 町の景観の破壊、渋滞や騒音などの公害が発生する可能性がある
地域資源を活用したイベントを企画する

- ・メリット 町の景観が破壊される可能性は低い、地域資源を生かすことで町の PR に繋がる

- ・デメリット 1日に何万人もの観光客は期待できない

4)大型商業施設やテーマパークを作ることで発生するデメリットは、徳島に住む人々が不快な生活を強いられることになる。これでは本末転倒である。地域資源を活用したイベントであれば、町の PR にも繋がるため、町の人々や企業と協力して観光業に取り組める。以上の理由より、地域資源を活用したイベントを企画するべきである。

平井先生の課題で取り組みたいことは「地域スポーツ」についてである(今回はフェンシングに限ろうと考えている)。

(構想)

なぜフェンシングが徳島県で盛んにならないか⇒どうすれば盛んにすることができるか。

- ・フェンシングクラブがなかなか知られていない。
- ・部活動の場合は、フェンシング部が県立城ノ内高校のみしか存在しない。
- ・そもそもフェンシングがどういうものか知られていない為、盛んにすることが難しい。

(調べたこと)

- ・マイナースポーツゆえに知られていない(フェンシングが県内のみならず、国内において名前が知られるようになったのは、2008年北京五輪で、太田雄貴選手が男子個人フルーレで準優勝してから。また、2012年ロンドン五輪で、男子団体フルーレで準優勝してから)

- ・徳島県のスポーツ振興(競技力向上?)のやり方が古い。他県などは、強いスポーツなどをどこか1つの高校に集めるのではなく、散らばらせて連合軍のような形をとっている。

徳島県の子どもの体力低下についてレポートを書きたいと思う。

私は徳島で生まれ育ち、スポーツを小学生の時から続けている。小さい頃からスポーツを楽しむ生活をしていたので、子どもは皆スポーツが好きなのだと思い込んでいたが中学生の時に徳島県の小学生の体力測定の結果が全国平均以下であること、肥満児が増加しているという事実をニュースで知った。私はこれらの問題を少しでも改善したい。

資料は、小学生を対象とした体力測定の結果の全国平均と徳島県の小学生の体力測定の結果の比較を用いる。

コメント [h26]: 全国や県内の競技人口などをみてもよいかも。

<徳島県が抱えている課題>

- ・ 汚水問題
- ・ 人口減少
- ・ 過疎化
- ・ ゴミ問題

<取り上げたい課題>

徳島の汚水問題について

<すでに調べたこと>

- ・ 徳島の汚水処理人口普及率が全国最下位
- ・ 産業排水、生活排水が主な汚水の原因
- ・ 下水道には分流式(汚水と雨水を別々に排除する)と合流式(1本の下水管で汚水と雨水を同時に排除する)がある。
- ・ 上勝町のゴミウェイスト宣言
- ・ 上勝町はゴミ分別数が日本一
- ・ 上勝町では収集車によるゴミの回収をしていない

<調べなければならないこと>

農業集落排水

<すでに行われた取り組み>

- ・ 納豆菌による排水処理
→有効性:納豆菌は汚染や悪臭の原因となる有機物を餌として増殖し、低コストで長期間にわたり効果を継続させることができる。

1)環境問題、少子化、糖尿病、運動不足

環境問題について:公共交通機関が発達しているとは言えない徳島の主な移動手段は自家用車である。二酸化炭素を排出する量が徳島の大気汚染などにどのくらい影響しているのかが知りたいと思ったから。

2)環境問題:大気汚染、水質汚染、ごみ処理、リサイクル

二酸化炭素の排出量、リサイクル率の減少

3)ごみ分別の徹底、アイドリングストップの呼び掛けなど

4)まず現状を正確に把握して理解すること。SNSなどで発信する。それを通じて多くの人に正しく今の現状を知ってもらう。

現在の徳島県が抱える社会問題は、観光者の来場者が少ないことです。

私は地域科学の時に徳島の観光者数についての統計を調べましたが、大塚美術館やかず

コメント [h27]: 徳島県の県民環境部に関係データがあるのでしょうか？

ら橋でさえも年間平均合わせて 50 万人ほどでした。私の地元で例を取ると、道後温泉では年間平均で 100 万人でした。徳島県には他にも眉山や渦潮など魅力的な観光地がたくさんありますが、うまくその魅力をアピールできていないのではないかと考えます。

道後温泉の近くには愛媛の特産品のみかんを使ったジュースや、坊っちゃん団子を販売しているので、徳島県にも観光地と特産品を混ぜ合わせた企画などで、観光者を増やしていくことがいいと思います。

僕は、生まれてから今まで徳島県に暮らしてきたので徳島の良いところや悪いところを見てきました。だから平井先生の課題にします。

レポートを完成させるために徳島県のサイトを見てどのような政策が行われているかを調べます。

【徳島県以外の地域：愛媛県】

1)自分は愛媛県出身であるので、愛媛県のことについて考える。

1 愛媛県の過疎化について 2 松山市のマンションの増加による景観の悪化についてという二つに焦点を当てる。

2)1 と 2 について現状を調べる。

3)現在行われている対策と今後考えられている対策について調べる。

2 についてはロープウェイ街が表彰されていたはずなのでくわしく調べる。また、大街道の入口が改修されて綺麗な景観になったので松山市が景観の改善のために行ったことなのか調べる。

4)根拠を述べる。

<現段階で調べたこと>

1 について 現在の過疎市町村は伊方町、八幡浜町、大洲市、内子町、久万高原町、西予市、鬼北町、松野町、宇和島市、愛南町である。

引用先:全国過疎地域自立促進連盟ホームページ www.kaso-net.or.jp 2017

年 6 月 5 日閲覧

2 について 現在景観維持のためのルール作りが計画されている。ロープウェイ街も改修された。

引用先:松山市ホームページ <https://www.city.matsuyama.ehime.jp> 2017 年 6 月 5 日閲覧

私が取り組みたい地域課題は、愛媛県における地域格差である。私の出身地である愛媛県は、県全体が地理的に東予・中予・南予の3地域に分かれており、県庁所在地である松山市が存在する中予とその他の地方の地域格差は年々広がっている。このような現状を踏まえて、私は愛媛県の南予地方に位置する愛南町という町の地域課題について調べ、その解決策について考えていきたい。

愛南町は、愛媛県の最南端に位置する人口22,246人(平成29年6月1日現在)の町で、昭和60年から国勢調査での人口推移は減少の一方で、特に65歳以上の人口が33.6%(平成22年現在)を占める超高齢化社会である。このように深刻に高齢化が進行している愛南町における地域の活性化を課題として解決策を考えたい。

まず、愛南町の人口減少や高齢化の進行は、真珠養殖の不振や松下寿電子工場閉鎖に伴う経済力の低下によって、地域の働き口が減少しているため、若者たちが進学・就職の際に町外へ流出してしまうことが原因と考えられる。そのことを踏まえると、まずは地域の産業を確立させることが重要である。具体的には、温暖な気候やリアス式海岸など愛南町特有の地形を生かした産業をより町外の人々へ伝えたり、大企業の工場や支店をこの土地に移転させたりすることで、若者の働き口を設けることである。また、一時的に人を呼び込む手段である観光業の活性化においては、県内における特産品の宣伝は他地域に劣っていない印象を受けるため、さらに県外においてのアピールや観光地の宣伝などに力を入れることにより人を呼び込むことができると考える。

現時点で取り組みたいと思っているのは愛媛県が抱える問題だ。

愛媛県松山市及び中予地方に集中する人口とその反対に東予・南予地方の過疎化の問題の解決策を考える。

そして、愛媛県の認知度に関する調査で東京都在住者に対してアンケートしたところ約68パーセントの人が愛媛県がどこにあるかを知っていたが、逆に考えると30パーセントの人は知らないという結果がある。四国にある別の県と間違っている人も多く「愛媛県はここだ」と知ってもらえるように愛媛県の認知度アップにはどのようなことをしたら良いのかを考えたい。

愛媛県出身の私にとって、地元の取り組まなければならない課題はたくさんある。愛媛県の人口流出、少子高齢化、空き家問題に観光地の活性化といった問題がたくさんあがる。しかし、これは愛媛県だけの問題ではなく日本中の至る所で問題である。そのため、ポイントをもう少し絞り、自分の住んでいる市についての問題について考察していきたいと考えた。私は、愛媛県の四国中央市と言うところに住んでいる。四国中央市はのんびりとした畑が広がるのどかな町だが、大王製紙という紙産業が栄えている。そのため、空気はす

ごく汚く、匂いも悪い。四国中央市に帰省すると、くしゃみが増えたり風邪をひいたりすると言われているくらいである。また、24時間起動し続けているため、多くの排気ガスを排出している。それらによって、市内にどんな悪影響を及ぼしているのか。また、その反面大きな紙産業の工場があるおかげでどういった利益をもたらしているのかをこの機会に調べたい。環境問題の他にも、全国各地からこの工場地帯へ集まるため、トラックが多く走っている。そのため、道路の交通渋滞が毎日起こる。通学途中の子ども達にとっても危険が伴っている。緩和するために何か取り組みはしているのか調べ、次のレポートでは自分なりの考えを考察していきたいと考えている。

私は、地域活性化について興味があります。なぜなら、私は、高校時代ユネスコ部という部活に所属していたからです。愛媛県新居浜市の基礎を築いた別子銅山について学び、その魅力や歴史を伝える活動を行っていました。小学生を対象に、別子銅山関連の遺産を巡りながら学ぶワークショップを企画したり、市内中学校へ出向き、「登山事前学習」と題してプレゼンを作成し、別子銅山についてだけでなく、登山時の注意点を発表したりしました。また、年に二回ほど「あかがねの道スタディツアー」というものを実施し、現存する別子銅山の遺跡についてガイドしたりもしていました。しかし、そういった活動を通して、今の若者は自分の故郷にそこまで関心がないことに気が付きました。ツアーを実施した際や地域のm¥コミュニティセンターで別子銅山についての学習会を開いた際、参加者の中に若者の姿がほぼなかったからです。学校でも、先生方や地域の方からの期待、信頼は大きかったのですが、ユネスコ部の活動に興味を持ってきている子はあまりいませんでした。

現在、多くの若者が都市部へ流出しており、一つの社会問題となっています。どうすれば若者のシビックプライド(自分の故郷に対する自信や愛着心)を育むことができるか、研究してみたいです。

私は愛媛出身なので「空き家問題について」取り上げる。空き家問題はしばしば新聞で取り上げられるほど問題となっており、放火や住居不法滞在など、地域の秩序を乱すかたが山積みである。対応策として、空き家を改造して安く住むことのできる住居を提供するサービスを始めることを提案する。今、都会に若者が流れていることが問題となっている。その対策案として、若者を集めるショッピングモールやアミューズメントパークの建設が考えられているが、それでは意味がない。彼らを止めるには、一時的ではなく、永久的に止める必要がある。その際に良い働きをするのが「空き家」である。安く買うことができる上、アパートよりも広いので家族を増やす余裕もできる。それゆえ、少子化対策にも働きかけることができる。

また、海外旅行者にも注目すべきだ。最近東京 2020 の影響もあり、日本に注目が集まっているが、マンションの不足が問題となっている。そこで「空き家」を利用する。海外からの団体客にもってこいである上、空き家は元別荘であった例が多く、風景も楽しめる立地に建ててあるので、観光には最適である。

さらに、空き家は地方に多く分布している。なので、高齢化の進む地域の人にもできる簡易なビジネスとしても注目できるだろう。

これからの課題としては、空き家問題の他の活用法、高齢者によるビジネスの例、若者のという従者を増やすほかの政策について調べたい。

【徳島県以外の地域：兵庫県】

私の出身地は、兵庫県の宝塚市である。宝塚市の代表的な課題の一つに、農業の衰退がある。この主な原因は都市化による農地の減少である。宝塚歌劇や温泉などの施設への観光客が増加し、大阪、神戸の近くである立地を生かしたベッドタウンとして、たくさんのマンションが建設された。だから、宝塚市では、農地のみられる地域が非常に少ないのである。また、川がたくさんありながらも、水が流れていない乾いた川が多いことにも農業衰退の原因がある。このような原因を含めた宝塚市の農業衰退への、現在行われている対応策はとても少ないため、新たな対応策を提案できるようにする。

地域活性化について調べたい。日本では少子高齢化が急速に進み、東京へ人口が一極集中しているため地方の人口がどんどん減っている。これからますます地方は人口が減り限界集落が増えると予想できる。したがって私は地域活性化について考えることはこれからの日本にとって最も重要なことだと考える。特に私が生まれ育った兵庫県丹波市の地域活性化について調べたい。丹波市は、年々人口が減っており、典型的な少子高齢化が進行している市町村である。丹波市でも人口減少に歯止めをかけるため様々な活動を行なっている。例えば、私が通っていた兵庫県立柏原高校知の探究コースでは「探究」という授業を通してふるさと教育を行なっている。6 班に分け、農業、産業、医療などの分野について学び、どのように地域活性化に活かせるかを考えている。このような事例から今後の地域活性化についてレポートを書いていきたい。

私が取り組みたいレポート課題は、平井先生の地域の抱える課題についてのレポートである。このレポートで私が取り上げたい地域は、私のふるさとである兵庫県の香美町とい

う町だ。なぜなら、この町は実際に過疎化が進んでおり、少子高齢化、人口減少、人口流出、産業の衰退など様々な解決しなければならない課題が詰まっているからである。たくさんある地域課題の中で、私が一番に解決したい課題は、伝統文化や産業の後継者育成の課題である。この地域で衰退している伝統文化、産業としては、一つ一つの村で受け継がれる伝統の祭りや伝統芸能、日本棚田百選や日本一のお米に選ばれた棚田や田んぼの管理などがある。これ以外にも小さな課題や、まだ知らない課題があるかもしれないが、この二つの課題についてレポートを書きたいと思う。

私は、地元である淡路島が抱える課題について考える。

淡路島は、一人暮らしの高齢者の方の増加や、農漁業の後継者不足などの問題を抱えている。また、兵庫県/淡路地域ビジョンによると、「人口減少に伴い、コミュニティの維持困難、教育機関の規模縮小、伝統芸能の後継者不足などの問題」が生じているという。

農漁業の従事者の高齢化や後継者不足の問題に対して、淡路市長は、「農業では、中山間地域直接支払事業や多面的機能支払交付金事業など集落単位や集落営農組織で取り組むことにより、作業効率の向上、機械の導入など組織力を活かすことでコストの低減を図るための支援」を行っている。また、「漁業では、水産物の安定確保による漁業経営の安定化を図るため、良好な海の環境を維持する海底耕運やかいぼり、漁業共済や漁船保険への加入促進、ヒラメ、マダイ等の種苗放流、アオリイカの産卵床の増設や漁業共同利用施設の機能充実と安全性の確保を図るための補助」を行っている。農業の後継者不足の原因として、農業をするためにはトラクターなどの機械が必要で、それらを買うためのお金がないということも考えられるので、多面的機能支払交付金事業は効果的である。

参考ウェブページ

1)兵庫県/淡路地域ビジョン

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/awk12/awaji/vision.html>

2)平成 27 年度 淡路市長施政方針 - 淡路氏ホームページ

<https://www.city.awaji.lg.jp/site/mayor/h27siseihousin.html>

【徳島県以外の地域：香川県】

香川県の水不足問題

香川県は徳島県の吉野川から水を引いてきている。大学で徳島に来て、下宿しているマンションが吉野川の目の前だからこの問題についてかなり興味を持った。

香川県はもともと雨が降ることが少ない。讃岐山脈が南にあるが、そのためにより雨が

コメント [h28]: 香川用水についてしらべるとよいでしょう。

少なくなっている。そのために香川県はため池を多く作り昔から生活してきた。
これからも徳島県や周りの県から水を引いてきて生活しなければいけない。

私は香川県出身であるので、香川県の抱える問題について考える。香川県は交通死亡事故が非常に多いという問題を抱えている。交通死亡事故数を減らすために私が考えた対策は香川県では市内から少し田舎の方に行くと道路に歩道がなく自転車路側帯が非常に狭いという状況があるので道路を広くし歩行者、自転車が通れるスペースを確保することである。自転車事故も多いので、自転車で通学する人数の多い中学生、高校生の自転車マナー講習を徹底することも対策としてあると考える。

コメント [h29]: 道路整備が進んでいる裏返しの減少かもしれません。

【徳島県以外の地域：和歌山県】

私は和歌山県出身なので和歌山県の課題について考えようと思う。和歌山県はまわりにビッグネームがあるせいで存在感があまりないがたくさんの観光資源がある。例えばパンダや高野山、白浜温泉など。全国的に珍しい飛び地なんてものもある。なのにいまいち他府県民にその魅力が伝わらないのは交通の不便さとアピール下手だからだと考える。ICOCAを使えるようにし、スペインのトマティーナ祭りをまねて梅ティーナ祭りをするだけで人を集めることができると思う。それにこそ柔軟な発想が必要だ。

私の出身地は和歌山県だ。自分の出身地が好きで、県の抱える課題を調査しもっと知りたい。和歌山県には過疎地域が散らばって存在している。しかし、過疎地域で行われている少子高齢化対策や地域活動についてはあまり知らない。私の住んでいるところは和歌山市内であるので、他の地域よりも過疎化は深刻ではない。しかし、南のほうに行くとかなり田舎でコンビニすらないような地域が広がっている。道も私の地元よりも舗装されていなかったり、街灯が少ないため夜道を一人で歩くのは非常に危険である。実際に、犯罪も起こっている。犯罪件数や犯罪の具体的な内容も警察の統計から読み取りたい。

【徳島県以外の地域：中国地方】

取り上げるべき課題として選びたいのは、過疎化問題である。中でも私の地元島根県に

ついて取り上げたい。島根県は、過疎化によって人口が大正時代を下回ったといわれている。まだまだ十分に調べてはいないが、これから調べなければならないこととしては、なぜ島根県はこんなにも人口減少が著しいのかということである。島根県の中でも、大田市は「住みたい田舎ランキング」1位に輝いたこともあるが、その割に人口が増えたという風には感じない。大田市は私の地元で、世界遺産である石見銀山もあり一時は観光客がたくさん来て活気があったが、数年もすると減少していき少し寂れたように感じる。大田市では、UターンやIターン者を積極的に受け入れる取り組みをはじめているため、これから少しずつ人口は増えていくかもしれない。レポートを書くにあたって、具体的にどのようなUターン、Iターン者を受け入れる取り組みをしているのかということも、調べなければならないことの一つである。

私は地元、山口県が抱える課題をレポートにまとめたい。山口県についてよく言われることは、中心がないということだ。地方とは言っても概ね、**県庁所在地**やまたそれに代わる地方都市が存在する。しかし山口県には中心がないのだ。一見中心がないとなんの困ったことが起こるのだろうか。それはその都市の中心とはいわば、地域創生のリーダーである。山口県にはそのリーダーになりうる都市が存在しないことになる。だからいまから中心を作ろうといっても、無理がある。だから山口県は各地域が協力する必要がある。どのような協力が必要なのか、この機会に考えたい。

私が取り組みたい地域課題は、出身地である広島県についてだ。その中でも特に「空き家」について詳しく調べたいと思う。構想としては、どのくらいの**空き家が増加**しているのかを確認したうえで、現在県の課題への取り組み方や日本全体の取り組み方を確認する。さらに、私自身の見解やアイデアなどを加えていきたい。今私が調べていることは、県のホームページで確認できる5年間の地域別空き家増加数である。

私は出身地の岡山県の問題について調べようと思う。私が挙げる岡山県の問題点は岡山市、倉敷市に人口が集中していることだ。構想としてはまず、一般的には人口が集中することは良いことではないとされているが、なぜ良いことではないのかを調べる。次になぜ岡山市、倉敷市に人口が集中しているのか、人口が集中することで起きる具体的なメリットとデメリットを調べ、解決策を考察する。今のところわかっていることは岡山市と倉敷市で岡山県の人口の6割以上を占めていることだ。調べなければならないことは前述した疑問点とその疑問点に関連したデータである。

コメント [h30]: 山口市などは合併で拡大しましたが、市町村合併による弊害も覚知できています。

コメント [h31]: 坂の町尾道市は、空き家対策の先進地です。

【徳島県以外の地域：その他】

静岡県沼津市の鉄道高架事業に関する問題

県の事業であること、用地の取得は 80%を超えたこと、しかし未だ地権者との間で合意がなされていない場所があり、事業が進んでいない。徳島市も鉄道高架の話があるが、こちらは予算の問題で進んでいない。何故か佐古地区のみ高架。徳島市と沼津市が似たような課題を多数抱えている事が私が徳島大学に来た理由の一つでもある。

コメント [h32]: 都市計画との関係性もあります。最近、コンパクトシティを目指す行政もあります。

愛知県が抱える課題への対応

私を取り上げたいと考える課題は、愛知県が交通事故死亡者数が全国で一位のことである。なんと 14 年連続でワースト一位である。

これらの原因として、運転のマナーの悪さ、自動車保有台数の多さが考えられる。

運転マナーが悪いのは、道が広いこと、信号が長いことなどが関係している。

愛知県にはトヨタがあり、自動車の県であり、自動車保有台数が多い。

交通事故死亡者数ワースト一位をキャッチコピーにさまざまな対策を行なっている。少しではあるが減少傾向にある。"

テーマ(仮):青森県における観光産業の振興

構想:

青森県は本州最北端に位置する県であるが、白神山地や十和田湖・奥入瀬渓流など世界的に誇れる自然を有し、ねぶた祭りなど観光資源が豊富であるが、その地理的条件や気象条件により観光客が東北地方に住んでいる人がほとんどではないかと考えた。また徳島県と同じように一地方の県であるため、少子高齢化や過疎化の進行が著しいことを取り上げる。

既に調べたこと:

自分が実際に 3 年間住んでいた経験と、新幹線や空港を 2 つも有し、アクセスは非常にしやすいが、その上の北海道が青森以上に大都市や観光的要素が多いためあまり目立たないということ。

調べなければならないこと:

徳大生、私の友人約 20 名程度に青森に旅行に行ってみてほしいかどうか。またその理由を聞いてみる。それをもとに青森県への観光客を増やす鍵を探る。

私は、高校 3 年生まで大阪府豊中市で暮らしていました。今までの人生の大半を過ごしていながらも、豊中市が抱える課題や現在の現状などを理解するといったことはありませんでした。この機会に自分の地元について知らなかったことを一歩踏み込んで考えることができれば、と思います。

まず現状の豊中市が抱える問題として

- ・ 少子・高齢化が急速に進んでいる
- ・ 北部と南部での地域格差
- ・ 人口・世帯数の減少
- ・ 事業者数や従業者数の減少
- ・ 空き家が増え、集合住宅は老朽化している
- ・ 収入の減少と歳出の増加が見込まれること

これらが主な豊中市が抱える課題ですが、もっと視点を広げるともっと様々な観点から他の課題が浮かび上がってくると思います。

これから本書きするレポート課題では先ほどまでに述べた抱える問題がなぜ起こってしまったのか、そしてこれらの問題を解決するためにはどんなアプローチ法を実践すれば良いか、などの具体的で論理的に整った構成で述べていこうと考えます。

私が取り上げる地域が抱える課題は熊本震災によって復興がまだ進んでいない熊本県益城町についてである。震災直後の豪雨によって被害が多く、震災 1 年を迎えた当時は県内で最も多い 516 戸の仮設住宅が建っている。さらに避難者は 1300 人を超えていた。しかし、復興は都市部に集中し、山間部である益城町には復興の手が伸び悩んでいる。一般的に利便性から考えて都市部から復興させていく方が良いと考えられているが、山間部でも今なお震災で苦しんでいる人も多い。これらを知ったことで、もっと震災復興を地域から早期で行なっていく必要があるということが課題として取り上げる理由である。私はジャーナリストの堀潤による取材記録を見て、現在の益城町の現在の建物損壊の状況や益城町に住んでいる人々の声を調べるようにしている。しかし、政府発行の公文書などはまだ調べていないため地域別の復興度合いや国費支出などを調べる必要がある。また、震災復興に向けて対応する手段としてクラウドファンディングが考えられると言える。そのためにはクラウドファンディングを実施していることを多くの人々に知らせる手段を考えていく必要がある、そのクラウドファンディングの広報をしている市民団体などについて調べるべきである。有効性としては、市民からの自主援助であるため、資金援助は強制力がなく、市民は自分の気持ちで行動を移すことができる。その上、ネットでの募集をかける方法であることから、SNS やネット動画サイトなどでの拡散をすることでより多くの資金援助を見込める。しかしそれらの問題点として、資金が集まるのか、そしてその資金をどこに使うかによってその地域内でも支援格差が生まれかねない。そのため資金を集める際には大雑

コメント [h33]: 豊中市だけでなく、大阪市との関係にも注目しておいてください。

把に「益城町の復興」というくくりではなく、益城町の何に資金を使うのかと種別に細分化し、資金活用目的を明示することが必要である。レポートではこれらの点に関して述べていく。

起

私は、長崎県の抱える課題について考えてみる。

- ・ 離島人口減少
- ・ 県人口減少
- ・ 諫早湾干拓問題
- ・ 石木ダム建設問題

長崎県での主な地域課題は上記に挙げたものだが、この中でも私は離島人口減少について詳しく掘り下げてみた。

長崎県は 900 以上の島から成っている。離島は長崎県のシンボルである。人口が減る、又は消滅イコールその島の文化の消滅であろう。また、人口減少に伴う観光客減少、産業の縮小は県全体の経済に影響を及ぼす。

承

(離島の人口推移の具体的な値)

※今後更に詳しく調べて完成

以上からわかるように～。

※上記の値を基に分析

人口減少の原因

離島の教育機関は最高でも高等学校までしかない。大学進学が重要視される現代では、大学を求めて県外に出る若者が多い。また、島自体が小規模なため、就職先も少ない。大学同様、就職先を求めて島を離れる人が多い。

転

県としての取り組み

- ・ 対馬の韓国との国際交流

韓国との国際交流を通して観光客を増やし町の活性化を図る。

→確かに町は観光客で賑わうが、対馬の若者減少の解決には直接的には繋がらない。この観光事業を通して就職先の増加や新たな教育施設を建てることを私は推奨する。

- ・ 椿による五島列島活性化特区

椿を売りにし活性化を図る。

- ・ 長崎県過疎地域自立促進方針

※その他詳しく調べて上記含め全体から抜粋

結

コメント [h34]: 鹿児島県や愛媛県・香川県なども覆うの島嶼地域を抱えています。比較されたはいかがでしょうか。

教育機関と就職先を増やす。その為の資金は、長崎県は観光のまちであるから、観光事業で得たお金を利用。または募金。

参考 URL

長崎県公式サイト

https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/kenseijoho/kennokeikaku-project/rito_keikaku/

小学校 5 年生のときから高校生のときまで住んでいた東京都の調布市の課題について取り上げる。地方だけでなく都市部にも課題はある。例えば、**地域コミュニティの希薄化**や大気汚染などである。

何か困ったことがあった場合には助け合うことが大事であるので、地域コミュニティの希薄化は解決しなければならない。そのため、地域コミュニティの希薄化を取り上げる。

地域コミュニティが希薄化しているところでは、隣や近所に住んでいる人を知らない、知っていても挨拶をする程度であるということが多々ある。

私が住んでいた調布市では、『一人ひとりの学びでつながるぬくもりあるまちを目指して』という基本理念 (p.2) の下、多くの生涯学習の活動を行っている。例えば、「ハッピーダンス健康体操教室」(p.5) や「深大寺走友会」(p.7) などがある。このような活動を通して多くの人と触れ合い、地域コミュニティを築いていこうとしている。

しかし、他にも多くの活動があるが、どこでどのように活動しているのか分からないことが多い。そこで、人がよく集まる駅などに掲示板を設けると、より多くの人に知ってもらうことができる。多くの人が活動について知ることによって、地域コミュニティは強くなる。

地域コミュニティを強くする活動には他にはどのようなものがあるのか、また、それらの活動による効果はどのようなものなのかを調べなければならない。また、徳島県にある活動を調べ、比較することで、地域コミュニティの希薄化を解決する鍵が見つかるかもしれない。

参考文献

調布市 生活文化スポーツ部 生涯学習交流推進課 『調布市生涯学習振興プラン概要版』
調布市 生活文化スポーツ部 生涯学習交流推進課, 2013.

私は、平井先生の課題である、「特定の地域が抱える課題への対応」についてレポートを書く予定だ。私の注目する地域の課題は、スペインの格差問題である。三か月前に家族旅行でスペインを訪れた際、とても強い衝撃を受けたからだ。まず、治安が悪いから、いろいろ気を付けなければならないことは耳にしていたが、想像以上にひどかった。スリや金のだまし取り、物乞いなどがどこに行ってもたくさん見受けられた。実際に調べてみると、やはり貧困層が多い国であった。

コメント [h35]: もともとあったのかどうか? 大都市部ではネットワーク型のコミュニティも多様ではないでしょうか。

まず、WSWS に寄稿したアレハンドロ・ロペス(Alejandro Lopez)が分析した ヨーロッパ連合統計庁(Eurostat)などのスペイン社会の指標によれば、2008年 の経済危機の後、貧困、飢餓と不平等がスペイン全域で拡大している。

また、ヨーロッパ連合統計庁(Eurostat)によれば、スペインのジニ係数は 2008 年の 31.3% から 2011 年には 34%に高まった。ヨーロッパ連合の平均は 30%で、スペインは ヨーロッパ連合 27 か国中、経済的に最も不公平な国家であることが現れた。公式な失業率は 25%で、25 歳以下の青年失業率は 53%だ。ある統計によれば 170 万 世帯の家庭は構成員のうち誰も雇用を持っていなかった。また雇用保険センター に登録された人の 67%しか国家から支援金や食糧を受けていない。

2010 年、スペイン政府は社会サービス支援事業で約 800 万人に水、電気と食料を 支援した。これは 2009 年より約 20%増えた。2 年経った現在の統計は知られていないが、さらに増加したと評価されている。スペイン国民党政府は今年基本的な社会サービスを支援する自治体の予算をほとんど半分まで削減した。

赤十字社は 30 万人のスペイン人を助けるために 3 千万ユーロ募金事業を繰り広げ ている。彼らは「赤十字に支援されるスペインの 82%は貧困線の以下で暮らして いる。最近支援を受けた失業者の半分が 2 年以上雇用がなかった」と語った。